

## 各国・年賀切手比べ

中華人民共和国(中国) 1980年用 申



日本 1950年用 寅



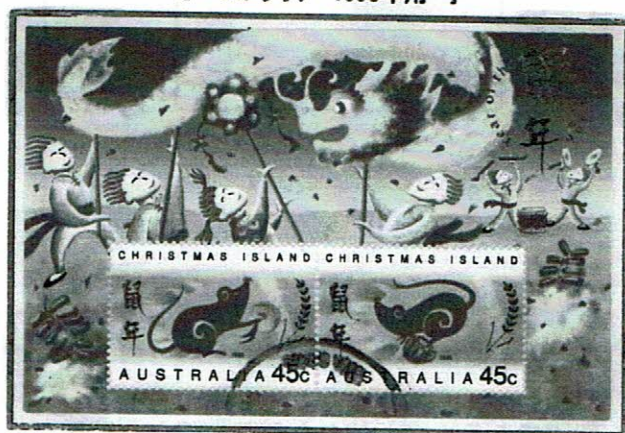
中華民国(台湾) 1984年用 子



香港 1992年用 申



オーストラリア 1996年用 子



年賀切手は、世界で初めて日本で発行されましたが、その後、アジアを中心に外国でも発行されています。有名な中国の「赤申」をはじめ各国の年賀切手を紹介します。

# ワシ 鷹 鳥

## の切手はカッコいい!

日本の鳥類の分類表では、ワシはタカ目の鷹であるが、タカ科はあってもワシ科は存在せず、タカ科の大型の鷹に対してワシの名を冠しているに過ぎない。それでも見かけの勇猛さから切手では高額の切手や航空切手の題材として使用されることが多く、いわゆるカッコよく仕上がっているものが多い。ここでは、16カ国のワシの切手をまとめてみた。



左上より順に リヒテンシュタイン/イヌワシ、アメリカ/ハクトウワシ、日本/イヌワシ  
ソ連/オオワシ、ポーランド/オジロワシ、ケニア/サンショクウミワシ、  
マレーシア/シロハラウミワシ、マラウイ/カンムリクマタカ、ザンビア/サンショクウミワシ  
ルワンダ/カンムリクマタカ、南アフリカ/ダルマワシ、リベリア/イヌワシ  
パプアニューギニア/パプアオウギワシ、ルーマニア/イヌワシ、フランス/ヒゲワシ  
ユーゴスラビア/ヒゲワシ \*カンムリクマタカは和名ではタカだが、英名では Crowned  
eagleと呼ばれており、ワシとして加えた。

猛禽類のワシは強さの象徴でもあり各国の航空切手や高額切手に描かれることが多く、カッコよく仕上がっているものが多いので紹介します。

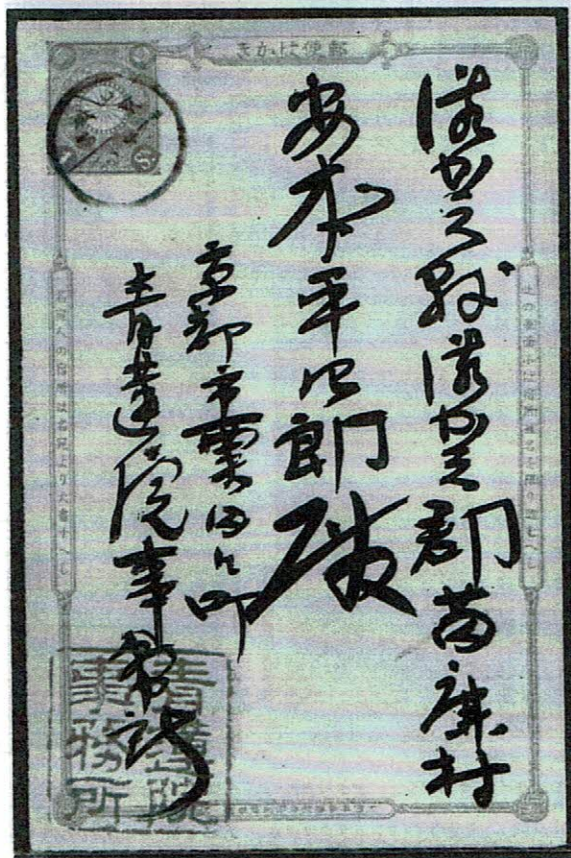
## インク浸透式丸一型日付印

明治31年ごろ、手押し日付印にインク浸透式を考案した人がいた。日本郵便スタンプ物語(第十一回)樋畑雪湖氏「肉地入らずの押印日付印に関する試験」の記事によれば、明治三十一年中新潟県の澤田喜内氏の発明考案が最初と思われる。

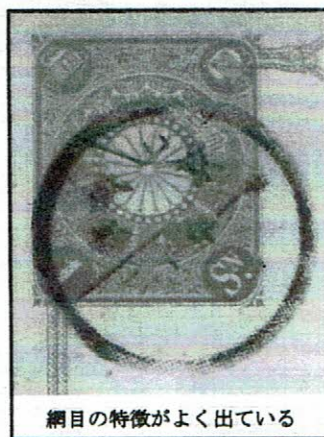
その構造は印軸の中枢に印刷インクを薄めたものを入れ、それが活字の間隙を透して日付印面に適度に抽出する。インクを平均ならしめる為印面を覆うに極めて薄き生絹を以て、とある。

明治31年12月末から32年2月ごろまで京都、大阪、名古屋局等で試用された。幾たびか改良が施されたが、効率性が上がらず、採用には至らなかった。

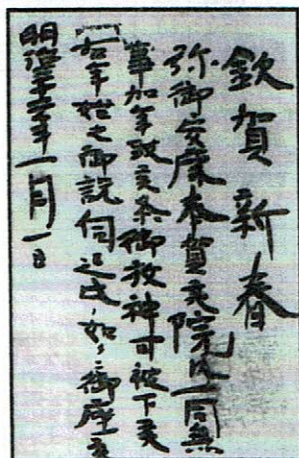
永富功氏の徒然草第10号には18の使用データが掲載されている。特徴は生絹の痕(網目)である。



山城/京都 三一年一二月(日付便号不明)



網目の特徴がよく出ている



裏面(年賀状)

インク浸透式丸一型日付印は作業効率アップを期待されて試用されたが、残念ながら実用化には至らなかった。しかしながら、画期的な発明であり、現代のインク浸透印のはしりとなったと考えられる。

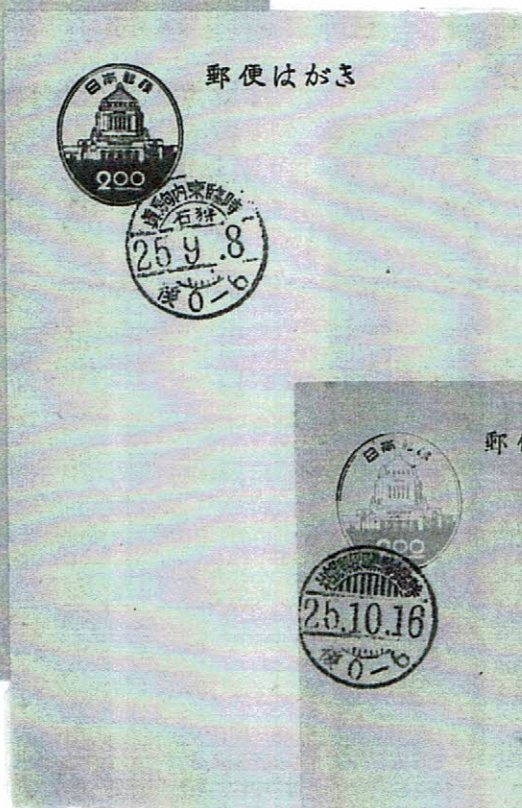
### 真駒内郵便局東臨時分室と札幌郵便局真駒内臨時分室

真駒内郵便局東臨時分室 昭和25年 9月 8日設置 昭和25年10月16日郵便事務廃止  
 札幌郵便局真駒内臨時分室 昭和25年10月16日設置 昭和26年 4月 8日廃止



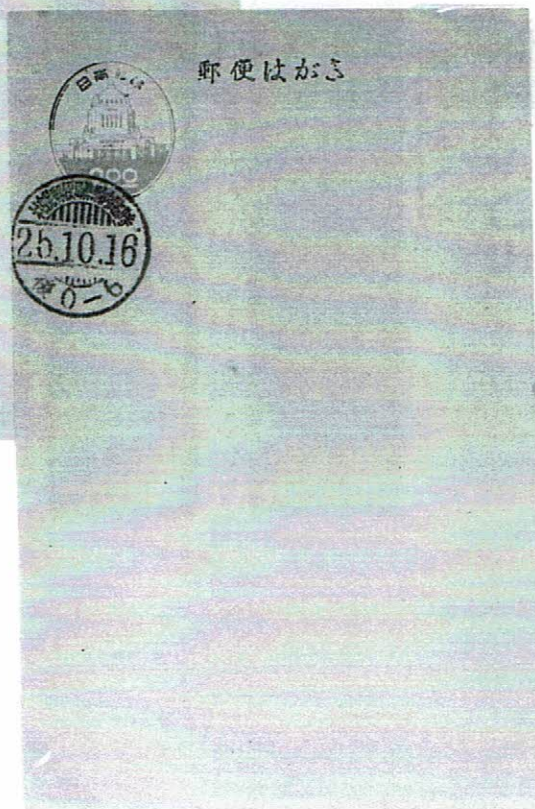
真駒内郵便局  
東臨時分室

D欄：楠



札幌郵便局  
真駒内臨時分室

D欄：石狩



この2つの臨時分室は、札幌郵政局報に告知されていて、郵政省告示は出ていない。

所在地は両方とも札幌郡豊平町字真駒内となっている。当時の予備隊が真駒内にあり、隊員の便宜を図るためだったと推測される。

両臨時分室とも取扱時間は午前12時より午後7時までとなっているので、午前印は存在しない。

# EUROPA

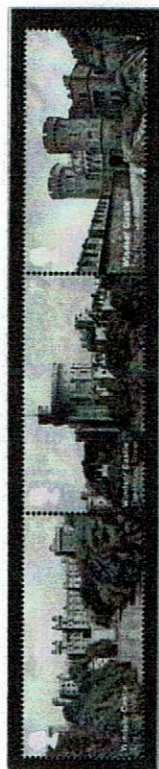
## ウィンザー城



セントジョージス・ホール

クイーン舞踏室

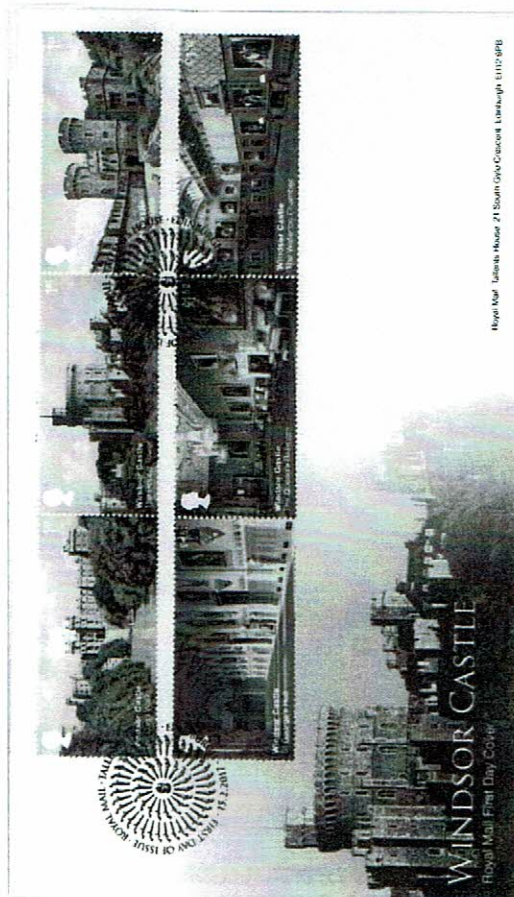
ワーテルロー



グレートパーク&ウィンザー城

ラウンドタワー

ノルマン門



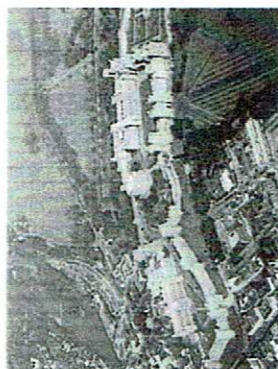
イギリス

2017.2.15

11世紀ウィリアム1世 砦を築く

世界最大の居城

現在エリザベス二世週末に滞在



航空写真